

活動テーマ

## 横瀬町の地域資源を学生の目線でコンテンツ化

横瀬町全域地区 立教大学観光学部

### 1 活動目的

町にある資源を学生の視点でコンテンツ化し「日本一歩きたくなる町」の実現、関係人口の増加を目指す。（最終目標は定住人口へ繋げること）

「日本一歩きたくなる町」とは横瀬町の掲げる理想像。公募によって選ばれたオススメのウォーキングコースの紹介や、観光イベントなど”歩きたくなる”ようなウォーキング関連の事業を2021年10月から展開している。

### 2 活動地域の現状

埼玉県の西部、秩父地域に位置し、豊かな自然に囲まれた町。町の面積は約49平方キロメートル、人口は約8,000人であるが、人口の減少や少子高齢化が進み、人口の減少に備える必要がある。都心からのアクセスが良好で、西武秩父線の横瀬駅を利用すれば池袋から最短72分。

横瀬町は「日本一チャレンジする町」を掲げ、上記の特性を活かして町に多様な人材を集め地域活性化に取り組んでいる。

### 3 活動内容

#### ①地域イベント企画

- ・里山まるマルシェ（春マルシェ）
- ・夏の自由体験イベント、立教企画
- ・里山まるマルシェ（秋マルシェ）
- ・横瀬での秋満喫ツアー
- ・あしがくぼの氷柱立教企画
- ・チャレンジキッチン ENgaWA 調理イベント

#### ②地域イベントの補助

- ・里山まるマルシェ
- ・寺坂棚田ホテルかがり火まつり
- ・夏の自由研究体験イベント
- ・里山まるマルシェ



## 4 成果

例年参加している地域イベントでは、スタッフ参加・補助、立教企画の実施をおこなったが、昨年の反省や発見を踏まえ、より良いスタッフ参加とコンテンツの作成に努めた。新たな企画を考案し実施する中で町内外の人々との交流を増やすことができ、地域の皆様の生の声を聞く貴重な機会となった。また、イベント運営の視点からも、参加者の反応や意見をもとに改善点を見出し、今後の企画に活かすことができた。

年度開始後に依頼された地域イベントの補助においては、横瀬町の新たな魅力や資源を発見することができたとともに、その魅力や資源の活用策について提案することが新たな課題となった。

## 5 課題

### ① 情報周知と誘致の不足

イベントの実施において、想定しているターゲットに情報が届かないという課題が見られた。現在当研究室では主にInstagramでの広報をおこなっているが、リーチ数が少ないのではないかと考えている。これを踏まえ、広報体制の見直しを行い、Instagramで広告を出すことやシニアに届きやすいという指摘のある、フェイスブックの活用なども適宜行う予定である。また横瀬町や他大学などと連携し多方面からアプローチする機会を創出していきたいと考えている。

### ② 町に寄り添ったイベントの実施

今年度の活動では、来訪された方から様々な意見をいただいたり、イベントに参加する中で気づきが多くあり、活動に関して更なる改善が見込めた。またイベントの集客力を高めるために、町内外の人々がどのようなイベントを求め、どのようなイベントに参加したいと考えているのかを正確に把握することが必要となってくる。そのために、社会連携活動やイベント後のアンケートを参考に企画、運営をする予定である。

### ③ 持続可能な観光資源の創出

今年度は横瀬で活動される方々や地域の魅力を発見することができた。今後は更に横瀬町の観光資源を創出し、またそれらを効果的に活用するための具体的な企画が課題であると言える。

## 6 次年度以降の計画

### ① イベントへの継続的な参加

例年同様、地域のイベントへの積極的な参加を続ける予定である。具体的には春マルシェや秋マルシェへの出店、スタッフとしての参加を予定している。また、あしがくぼの氷柱での立教担当日の企画・実施や、チャレンジキッチン ENgaWA でのイベント提案も進めていきたいと考えている。こうした活動を通じて、地域の方々や、横瀬で活動される他大学や他団体との交流を深めていきたい。

### ② 年度開始後の依頼されたイベントへの臨機応変な対応

年度が始まってから横瀬町より依頼される地域イベントについて、臨機応変な対応を目指す。今年度おこなった横瀬町周遊ツアーは横瀬町のチャレンジキッチン ENgaWA 様からお声がけいただいた共同イベントであったが、このツアーについても第二弾の実施を目標としている。地域との協力体制を強化し、舛谷研究室内においても活動を柔軟に運営できるよう工夫していく予定である。

以上